

地域密着型サービスの自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当施設独自の理念を玄関、事務所、見やすい場所に掲示してある。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例的に開催している。ミーティングを通じ理念を共有し実践に向けて取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議、家族会を通じて伝えている。又、地域の清掃などにも積極的に出向いて交流を深める中で理解してもらえるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方に消防訓練に参加して頂き協力もらったり、又、地域貢献では、野道のゴミ拾いは開設後ずっと月2回続けており分区の方から温かい声かけをしてもらえるようになった。又、高齢者の方が花の苗を届けて下さったり、花作りの指導までしてもらいながら日々お付き合いができています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会、六月灯、イルミネーション見学、花火大会、町の行事にはすべて参加している。郵便局、消防署、役場、小学校(ベルマークを届けたり)保育所、薬局(通信を2ヶ月1回待合室に掲示してもらっている)などに出かけ、地域交流に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	H19年度より、高齢者の方を中心としたハーモニカクラブに職員2名が参加している。これを通じ地域の方がホームに来て下さる機会がふえた。又、食事を一緒にしてもらったりして、輪を広げている。町の芸文館には、グループホーム和利用者の作品を出品したりして、少しでも役に立つように取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、各職員の意見を聞きながら作成した。年1回は見直しをするいい機会でもあった。外部評価で指摘された所は、全職員に伝え受けとめ、改善シート作成し介護見直し、質の向上に努めている。	○	H21年度、センター方式を取り入れる計画であったが、介護支援専門員の異動などでできなかったが、H22. 1月よりセンター方式に取り組んでいる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回の運営推進会議には、全職員が参加している。グループホームの状況を報告し、助言を頂いた事に対しては、実現に向けてサービスの向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の職員に気軽に相談ができ、色々な面で協力を頂いている。町報を届けてもらい、利用者の方は楽しみにされている。防災無線も取り付けてもらい、家庭的な環境作りの一貫となった。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	対象者はいないが、研修会に参加し学ぶ機会を持ってきた。	○	最近仲々権利擁護に関する制度の研修がない。県西ブロック等で研修を入れてもらうように話し合いをして行こうと思っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の資料を職員に分配して虐待のないように注意している。 年2～3回は、ミーティングの際にも話をして、防止に努めた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時、十分な説明を行っている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>窓口へ苦情箱の設置 苦情処理、受け付け、宮崎県国民健康保険(国保連合会)、野尻町役場の連絡先を掲示している。 利用者、家族の意見、不満、苦情は真剣に受け止め、改善に向けて取組んでいる。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	定期的にホーム便り、通信を発行し暮らしぶりを報告している。健康状態に対しては電話連絡が多い。必要に応じては、年2~3回手紙で報告してきた。金銭管理は、年に2~3回説明を加え、領収証のチェックをしてもらっている。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	管理者は、家族会議、面会時に一人一人話しをして苦情、不満など聞くようにして、その事をしっかり受け止め、運営に反映させている。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月1回のミーティング、日々の業務の取り組みの中で 意見を求め話し合いながら、業務に反映させている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者に柔軟な対応ができるように勤務調整している。特に行事、外出する際は、職員数を増やしたりして、余裕をもって行動できるように調整に努めた。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	<p>母体施設内の異動はない様に、強く希望している。介護職には特には問題がなかったが、ケアマネの変更は、6年間で3回あった。こここのところが防げるように、努力していく必要がある。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	<p>県西ブロック会議の中での研修会では、母体施設の理学療法士にも協力してもらい、いい結果につながられた。これからも積極的に取組んでいきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族と相談しながら、本人が困っていることはないか不安なことはないか聴き取り、ご本人の状況を知るようにしている。入居者基本台帳の作成（既往例、家族構成・性格・情緒面・生活歴・現病歴等） 優しい声かけをしながら、ゆったりとした時間を設け、不安を取り除くように努力した。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に、グループホーム和を見学して頂き、相談や家族より困っていることなどを聴き、入居契約をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関連施設とも連絡を取りながら、その時に応じたサービスの利用ができるようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染みの箸、湯のみ、お茶わんを揃えてもらったり、又、室内にも大事にされていた品物は持ってきてもらいながら、本人が安心して生活ができるように、心が和むような室内の雰囲気作りに工夫している。家族歴、生活歴で見きわめながら、本人の意思に応えるように努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜作り・馴染みの料理に対しては、利用者の方に教えてもらう立場となり、ちまき作りやこんにゃく作り、そば打ちなどに挑戦してきた。又、利用者の中に、大正琴をされている方1名。職員が教えてもらう立場となったりして、いい気分でも過ごしていただくよう支え合う関係を築いている。	○ 最近ではあるが厨房で料理をして下さる人、畑に出て野菜作り、草取りをして下さる人がいらっしやって他の利用者の方には、何かと変化が見られるようになった。これからも、もっと色々な面で支え合う関係を築き上げる工夫をしていきたいと思っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	○	<p>昨年、正月帰省された方3名。利用者さんの体調を把握し無理のない限り、正月やお盆、帰省出来るように働きかけて行きたいと思う。</p>
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、職員は生活歴、性格的情绪面などで判断したり毎日の生活の中で気づき、変化を話し合いながら少しでも本人本位に近づけるようにしている。困難な場合は家族に聞いたりもしている。H21年度より月2回嗜好調査を施行し献立に反映し、食べる事に力を入れている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、趣味を考慮しながら一人ひとりに生活の中に取り入れてきた。農業されてみえた人9名。今回も、ハガマ、ナベを揃えて手にふれてもらった。又、図書館から借りてきて（昔の暮らし：昔の遊び）本を見ながら回想に力をいれた結果 高評だった。ラッキョ漬の過程、土つきらっきょから挑戦してもらい、馴染み暮らしに取り組んだ。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所時のアセスメント、毎日の申し送りなど把握し、一人ひとりの過ごし方を提供している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族・職員と一緒にアセスメントで意見を出し合い、3ヶ月に1回見直しをしながら、介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月1回アセスメントを行い、見直しを検討している。又、変化が生じた場合は、プラン変更し、カンファレンスを開催し、家族に話をして、確認していただき同意を得て、署名・捺印をいただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、徹底してきた。その中で、気づきは申し送りに記載し、情報を共有し、介護見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の方より、情報提供が届く仕組みになっているが、その中でグループホームが求める内容を提案して協力してもらうようにしている。デイケア和では、合同で夏祭り、勉強会（拘束・インフルエンザ）開催。ライフ和では、互いに食事を提供しながら共有するようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署、役場、郵便局、保育園、小学校、薬局、野尻町ロードレース応援、包括支援センターに出かけ交流をしてきた。ボランティアを定期的にお願ひして、実践に向けて取り組んでいる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護支援専門員の会議に積極的に参加し、話し合いをしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	野尻町グループホームびっきょん会では、会議に参加してもらい助言を頂いたりしている。又、骨折された利用者の経さつ等、意見を聞いてもらいながら、助言を頂いたりして協力してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体、押川病院と適切な医療を受けられる体制にある。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の変化を相談し、内服の調整をして頂いたり、眠剤中止の検討など相談してきた。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体が病院の為、特に問題はない。協力体制、連絡は密にしてある。病院からグループホーム連絡帳で把握できるようにしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院と連携し、早期退院ができるように、又、なるべくグループホームで過ごされるように要望して指示をもらいながら努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、入所時看取りに関する指針にそって話をしている。重度化、終末期に対しては、医師からムンテラされ、今後の方針を統一している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	変化、気づきを医師に相談し、できること、できないことを見極め、話し合いながら方針を決め、疼痛緩和、苦しみに対処できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>別の居所に移られた際には、馴染みの職員が出向きダメージを防ぐように努めた。又、使い慣れた小道具はホームで揃えるようにしている。家族とは連絡を取りながら、十分話し合いをしている。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーを損ねることのないように、言葉かけ対応には、注意を払っている。又、記録に対しては、ミーティング等で管理者は話をして、プライバシーを損ねることのないように取り組んでいる。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者に合った、その人らしく一人ひとりの話をゆっくり聞くように心がけている。又、笑顔、喜びにつなげるように支援してきた。ニュース番組、町報の提供、大正琴、ごったんなどの趣味を活かせるように取り組んできた。</p>	<p>○</p> <p>野菜作り、草取り、裁縫と私達の出来る範囲内で職員が一丸となって取組んでいきたい。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>車椅子で散歩する人、部屋でくつろぐ人、それぞれ利用者のペースに合わせて行動できるように支援している。買い物に行く事で喜びにつなげる利用者に対しては、家族の許可をえて頻回に買い物支援をしている。</p>	<p>○</p> <p>利用者が何をしたいか、どこに行きたいかと希望を言われる方が数名いらっしゃるので、希望を聞いて、日々の生活の中に取り組んでいきたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>出かける際には、自分でできる人には声かけし、お気に入りのよそゆきの服を着てもらって穏やかな表情が見られた。出来ない利用者に対しては、職員の方から、これでいいか、聞きながら対応している。朝は、鏡を見て毎朝、髪を整えてもらう支援している。</p>	<p>○</p> <p>美容に対して、本年度よりグループホームでできるように、予約をしているので、なるべく美容師の方にして頂き（家族と話し合いながら）おしゃれの支援につなげるようにしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>冬季はむすかしいが、夏季は利用者さんに声かけし、夜間入浴。入浴日でない日も支援していきたい。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物に出かける際は、お金を所持し、好きなものを買うことが出来るように支援している。外出先では、売店に立ち寄り試食をしたり、ふだんできない買い物支援に取り組んできた。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>地域交流、自然交流、公園の掃除、野路のチリ拾い、墓参り、里帰りとその人に応じて、幅広く対応してきた。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>小林の生駒高原へりんご狩り、綾のつり橋、酒泉の杜、須木のままこ滝、高原の御池や狭野神社と利用者さんと話し合いながら、希望を聞き支援している。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は自由、手紙は家族へ暑中見舞い・年賀状又、地域の方に手紙の交流もしてもらっている。その中でいつもやさしい励ましの手紙を頂き、職員まで励まされて本当にありがたく思う。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>多くの方に声かけし、気軽に来て下さるよう努めている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は、職員全員で話し合いながら身体拘束のないサービスを提供している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>定期的に、火災・地震にそなえての訓練を計画的に取り組んでいけるようにしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p> <p>家族会、面会時に現状を説明して、対策を話し合っている。生活ぶりは常に電話を入れたりして話し合う場を広げている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>体調の変化は、即病院へ連絡するようにしている。</p>	○	平成22年より、入浴の際にも身体の変化をチェックするようにチェック表を作成してる。小さな気づきも記入するように話し合ってきた。継続できるよう努めたい。
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>管理者は、服薬について重要な点は、常に話をして全員で周知している。(副作用、食前薬について、お茶で飲んではいけない薬など)又、一人ひとり日付・名前を入れ確実に服用されるように取り組んでいる。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>便秘の原因について話し合いをしている。水分補給、適度の運動などで工夫し、便秘薬を使用している利用者に対しては、排泄パターンを把握し服用させ、排泄するまでは責任をもってトイレで排泄されるようにしている。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>毎食後の歯磨きを支援している。常に清潔にし、二次感染防止に努めている。</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>食事には、皆で力をいれている。食べる量、栄養、バランスについては十分考慮し提供している。水分は、1日6～7回程度。夏場は、水分を自由に飲んでもらうように、キーパー、各自コップをホールに置くようにしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者、職員、全員インフルエンザ・新型インフルエンザの予防接種を受けている。平成19年度より年に1回感染予防の対策について院長より勉強会をしてもらっている。母体施設内でも新型インフルエンザの勉強会があり、職員が学ぶ機会ができた。	○	マニュアルの中に詳しく記載してあるので、もっと目を通すように働きかけていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手指の消毒、調理器具に対するの消毒は徹底し、衛生管理に努めている。特に、利用者さんの手洗いは徹底しており、おやつ、食事の際は、必ず声かけ施行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の廻りには、季節の花が絶えることなく気配りしている。年寄りの方でも入りやすいようにスロープがつけられている。玄関には、手作りだけの飾りをし、心が和む一時になるように工夫してきた。又、管理者はミーティングの際に、職員には、挨拶は厳しく指導してきた、そのことで、今では近隣の方から気持ちいい、うれしいがねえと言ってくれることが多い。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気でも過ごされるよう心が和める場所になるように、すべて装飾は手作りにした。畳の部屋の活用、冬はコタツ、夏は昼寝ができるようにゴザの準備をしたりしてきた。四季の祭りごとには、回想法につなげるように、すべて手作りにして表現してきた。おせち料理、節分、ひな祭り、こいのぼりなど、私達にできることは、すべて提供できたと思う。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いてある、ゆったりとテレビを見たり、音楽を聴いたり、談話されたり思い思いに過ごされるように、居場所を工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居室には家族と話し合いの上、使い慣れた好みの道具を揃えてもらい、趣味で使用されていた道具を持参してもらっている（ごったん、大正琴、裁縫道具など）又、職員は居心地よく過ごされるように工夫している。</p>		
84	<p>換気に努めている。（各室、換気扇設置） 温度調節（各室に温度計を置いてある） 個室の冷暖房の温度調整には、気配りしながら対応してきた。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>ホール、廊下、トイレ、浴室には手すりを設置してあり、出入り口にはスロープがつけてある。安全で動けるよう障害物がないように整理整頓している。</p>		
86	<p>居室、トイレには表札をつけている。 浴室は、のれんをかけたたりして分かりやすいようにして混乱を防ぐ工夫をしている。</p>		
87	<p>四季の花を植え手入れしてもらったり、野菜作りには特に力を入れてきた、トマト、スイカ、南瓜の収穫時は、利用者さんに手を触れてもらい、喜びにつなげることができた。ベランダで花見をしたり、稲の植えつけから収穫までを見ながら楽しく過ごすことができています。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム和では、地域の一員として地域に出かけ十分交流を深めてきた。町の行事には、すべて足を運び地域の方に支えてもらいながら過ごすこともできた。生活の中では、それぞれ特技を活かしながら回想法につなげる様、料理、野菜作りには積極的に取り組んでいる。利用者さんに教えてもらう立場になり、いい雰囲気作りができた。21年度は遠出して、名所に行っては景色を見たり、買い物支援をし、楽しみごとを増やす努力もしてきた。又、夜間の活動にも力を入れている。花火大会、イルミネーション、利用者さん 職員で演奏会を開き廻りの方に歌をうたってもらったりして、楽しく過ごしてもらおうように工夫してきた。手紙の交流では、地域の方と交流ができる機会があり、もう2年続けてもらい、いつもひとり1人にやさしい励ましの手紙が届いている。利用者さん、職員励まされ、これからも大切につながりが途切れることのないよう努めて行きたいと思っている。